

「困っている人を救う」立場で被災者支援を……震災、米価下落対策等で一般質問

9月議会の一般質問には35人の議員が登壇しました。私は2日、中越沖地震対策、米価下落対策、子どもの医療費助成、自治基本条例（仮称）をテーマに質問しました。このなかで市長は、被災者生活再建支援法の一部改正の動きにふれ、中越沖地震の被災者も支援対象となるよう政府に働きかけることや水道の石綿セメント管更新計画を少なくとも前倒しすることなどを約束しました。以下、私の一般質問を今号と次号に分けてお知らせします。



今回の一般質問の様子。上越市議会のホームページ（過去の中継）でもご覧いただけます。

中越沖

地震も対象にした法改正を

【橋爪】被災者生活再建支援法の一部改正案が先月、自民党によってまとめられたと報道されたが、読んでどう思ったか。

【木浦市長】中越沖地震にさかのぼって適用しないということでも遺憾に思った。

【橋爪】被災者はこれでは困る。直ちに県や国に対して対象となるよう働きかけてほしい。

【木浦市長】国会に提出されたら注視していきたいが、定例会後、働きかけていく。

【橋爪】震災時、現地対策本部の職員体制は、最初の2日間くらいはよかったが、その後は不十分だったと思う。その点を認めるならば、今回のことを教訓にして震災時のマニュアルを見直すべきだ。

建物被害認定は市の方針を持つべき

【木浦市長】合併して、これだけの災害は初めてということもあつたりして、混乱も生まれたが、その反省の上になつて対応していきたい。

【橋爪】建物被害認定は内閣府が運用指針を出しているが、市レベルで柔軟な対応ができるはずだ。実態はどうであつたか。

【木浦市長】内閣府の「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」は、被害認定に係る標準的な調査方法や判定方法を示したものだ。被害の判定に際しては、判定結果が被災世帯に対する支援制度の適用にも密接に関連してくることから、被災された方々からの説明を細大漏らさず聞き取りながら建物の隅々まで詳細に調査し、あくまでも被災者の方々の立場に立つて慎重かつ柔軟に対応してきたところだ。

【橋爪】この認定事務は自治事務だ。市の認定方針を持つべきだ。そして大事なことは被災者が納得できるような認定をしていくことだ。

【深澤財務部長】内閣府の指針を踏まえながら、被災者の意を汲みながら対応していきたい。「半壊」に近い15%から19%の人は25人おられる。十分調査してきたつもりだが、1%を積み上げるにしても新しい要素が見つからないとむずかしい。

【橋爪】柏崎刈羽原子力発電所の一連の地震対応について、市民の安全と暮らしを守る立場から厳しく抗議すべきだ。同時に被災情報収集に努め、原子力災害対策に本腰を入れることなどが必要と考えるがどうか。

【市長】一連の事態により生じた様々な不安や疑念を早々に払拭することは難しく、極めて遺憾な事態だ。柏崎市に隣接する自治体の長として、また市民の安全と暮らしを守る使命を持つ市長として、さらに今定例会で多くの議員からお寄せいただいた思いも踏まえ、近く東京電力に対し強く抗議するとともに、現在の対応状況や今後の安全対策について説明を求めるなど厳格に対応したい。

また、様々な事態に対し、的確に対応するためには、まず正確な情報を早く知ることが肝要であるので、こうした情報収集の体制や方法、さらには市民への情報提供などについて、現在見直しを進めている地域防災計画に記述するよう検討している。

石綿セメント管更新、少なくとも2年前倒しするよう努力すると約束

【橋爪】今回の地震で改めてライフラインの大切さがわかった。ガス・水道施設の耐震化プランはあるか。

【市長】昨年度に「ガス水道施設整備10カ年計画」を策定し、この計画の中で施設及び管路の耐震化を順次進めている。しかし、今回の中越沖地震では、特に水道の石綿セメント管を中心とした耐震性のない老朽管には48か所もの被害が発生し、復旧にも相当の時間を要した。財政的には非常に厳しい状況ながら、石綿セメント管の更新目標である平成30年度を、少なくとも2年程度は前倒しできるように、経営努力を続ける。今後は、主要な浄水場のバックアップ体制などについても検討を進め、ガス供給施設についても、平成20年度中には総合的な地震対策として取りまとめたかと考えている。

春よ来い 第八五回 最後のロードレース

スポーツ競技にはドラマがあります。国際大会であるうが、小さな学校の運動会であるうが、どこでも同じです。二〇〇七年九月二十九日、土曜日。新潟県立吉川高校の生徒や教職員、保護者にとっては、忘れられない一日になりました。

この日は恒例の校内ロードレースの日でした。来年の三月には閉校することから、現在、全校生徒は三年生だけの四八人。教職員も常勤はわずか五名です。長年、続いてきたロードレースも今回が最後のレースとなりました。天気は晴れ、秋風が吹き始めていたとはいえ、まだ暑さが残っていました。

レースは午前九時一五分にまず男子生徒が、次に一五分遅れて女子生徒がスタートしました。スターターは校長の山田先生。吉川高校最後のレースは全員に完走してもらいたい。その思いをいだきながら、山田先生はピストルの引き金を引きました。

今回のレースはいつもと違っていました。いくつかの集落をぐるっとひと回りするこれまでのコースはやめ、高校から下町、そして高校の北側にある下条堰のそばを通って新潟事業営業所の前に出る一周約二・五キロの周回コースになったのです。このコースを男子は三周、女子は二周することにしました。理由はただ一つ。これまでのような一回まわって終わりのコースにするにはスタップが足りないからでした。

そのことが分かったのは平和橋に近いカーブまで軽乗用車を走らせた時でした。そこには源小学校出身のS君のお母さんの姿がありました。また、何年前前に退職された元校長の小林先生や数学を教えておられた井上先生の姿もあります。保護者の方が誘導係りを務め、元教員も応援に駆けつける。みんな、この記念すべきレースを成功させたいと思っていたのでした。

小林先生はこの日、軽トラにお茶やスポーツドリンクを載せて応援に駆けつけました。トラックの荷台は臨時の給水所です。飲み物が入った紙コップをたくさん並べ、生徒が走ってくる、「おい、水、飲んでがんばれや」と声をかけていました。井上先生はというと、入院していた病院から休みをもらって家に帰っていたところ、有線放送でレースのことを知っていた応援です。最後のレースとあって、吉川高校で教鞭をとっていた先生たちもじつとしておられなくなったのでしようね。もちろん、原之町商店街などの地元の人たちも仕事の手を休めて応援していました。

最後の一周。足の早い生徒はもうとくにゴールしています。背が高く、少し太めの生徒が臨時給水所に近づいてきました。体育の授業を一度も休んだことのないK君です。自転車に乗って先導役をしていた西海士先生が明るい表情で言いました。「この子がゴールしてくれば全員完走です」。

ゴールのあるグラウンドには全校生徒が集まっています。一〇時半になろうという時、ゆっくりとK君が走ってきました。「がんばれ」の声飛びます。一時間一五分二七秒。彼のゴールをみんなが喜びました。K君の顔は笑顔で、輝いて見えました。

閉会式。山田先生は、「レースは一人の脱落者もなく、無事終わりました。吉川高校九八年目の最後のロードレースを全員が走りきった、その思い出を心に刻んでおいてほしい。このレースができたのは家族、保護者の方たちの協力のおかげです」と挨拶しました。短い言葉ながら、ジーンとききました。それに誘発されたのでしょうか、生徒全員が保護者のみなさんに向かって頭を下げ、H君が代表してお礼を言いました。「みなさんの温かい応援で走ることができました」。胸が熱くなりましたね。

震災復興補正予算、全会一致で可決

9月4からはじまった9月定例議会は10月4日に閉幕しました。今定例会は、普通ならば決算議会と呼ばれるところですが、7月16日の中越沖地震後初の定例議会ということもあって、一般会計、特別会計、企業会計とも震災復興関係の予算が目立ちました。また、35人が登壇した一般質問でも中越沖地震をうけての質問が多く、「震災復興議会」ともいえる状況になりました。

提出された議案のうち、今年度の一般会計をはじめとする各会計の補正予算はすべて全会一致で可決しました。昨年度の一般会計、国保会計、介護保険会計、下水道会計、農村集落排水会計の決算認定、及び、ごみ有料化条例については、日本共産党議員団は反対しました。

今議会に提出された一般会計の最終補正予算では、歳入歳出予算総額に26億2792万円を追加しました。この結果、予算規模は1060億6084万円になりました。この予算の中で、中越沖地震関連のものは8億5564万円になります。道路橋梁などの本復旧、小中学校や福祉施設、総合事務所などの公共施設の復旧に必要な経費が計上されました。このほか、被災住宅や附属建物などから発生した廃棄物処理委託料、木造住宅耐震診断補助金（追加分）も計上されています。

一般会計補正予算のうち吉川区関係の主なものを紹介します。道路の路面陥没などの災害復旧事業としては、市道町田線（100メートル）、市道町田頭法寺線（230メートル）、市道頭法寺線（30メートル）、市道長峰団地線（23

メートル）が計上されました。

吉川コミュニティプラザの災害復旧事業では581万円を計上。これで正面玄関、および花壇などの修繕工事が行われます。

福祉施設関係では、特別養護老人ホームほほ笑よしかわの里の擁壁などの補修（99万円）、ディサービスセンターうぐいすの里のトイレ、浴室補修（6万円）が計上されました。

文教関係では、ひび割れした吉川テニスコートの復旧で239万円、農業関係では、農地、農業用施設災害復旧費で合計2511万円が盛り込まれました。

アンケート、締め切りは10月31日とさせていただきます。

みなさんにお願ひしました市民アンケート、稲刈り時期という忙しいなか、大勢の方からご協力いただきました。ありがとうございます。締め切りは一応、今月末日とさせていただきますので、まだの方はよろしくお願ひします。

アンケートには、みなさんの市政や国政にたいする願ひがたくさん書かれております。私への注文やご意見もあります。これらは、来月中旬にはまとめて、全戸に配布させていただきます。

地図入りで要望を書いたところは、いま、少しずつまわらせてもらっています。アンケートに寄せられた市政への要望は、整理して、市長宛の要望書として提出します。